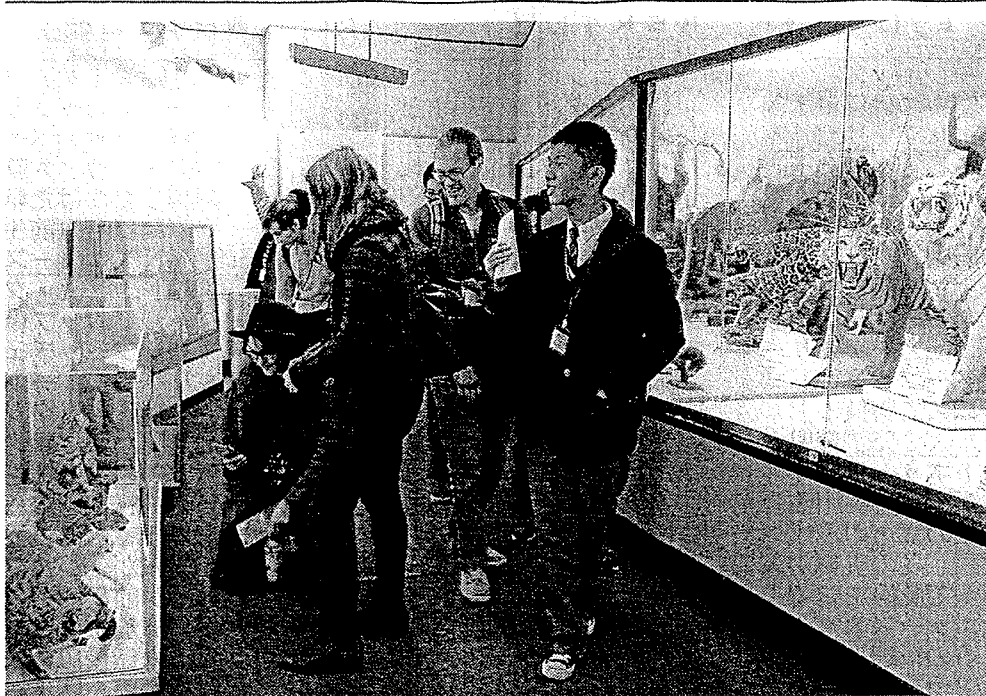


観光名所案内し交流

津商生徒と岡大留学生

対人関係、情報
発信能力育成
歴史や特徴説明



つやま自然のふしぎ館を案内する津山高生（右）

津山商業高校は12日、岡山大学の留学生を招き、生徒が津山城（鶴山公園）や城東地区、つやま自然のふしぎ館といった津山の観光名所を案内。学校で名物ホルモンうどんも食べ、交流した。

同校が今年度から始めた「津商アクティブ

プラン・ローバルプレゼンテーション」の一環。対人関係能力や情報発信能力の育成と向上を目指す目的で、同大留学生との交流を初めて企画、実施した。希望した1〜3年の津商生8人と、中国やインドネシア、イギリス、ドイツ、ハンガリーなどの留学生24人、チューターの岡大生2人が参加。生徒はバスに乗って同大まで迎えに行き、一緒に津山へ。事前に地域ボランティアガイドから学んだ知識を各観光名所で生かし、留学生に歴史や特徴などを説明した。

つやま自然のふしぎ館（山下）では、世界の希少動物のはく製、貝や昆虫類などの標本がずらりと並んだ館内を案内。日本文化を学んでいるフランス人のジョセフ・デヒットさん（21）は「珍しい動物や鳥などが多くて驚いた。とても面白い」。森腰怜佳さん（1年）は「分かりやすい日本語でコミュニケーションをとるよう心がけている。津山城では備中櫓（やぐら）の高さや石垣の組み方、私たちが見えていない部分に興味を示し、「見る視点が違うんだな」と勉強になる」と話していた。19日には岡山商科大の留学生との交流も予定している。